



「2018年秋季 JNN 社長会」で 佐々木社長が基調報告

9月20日(木)、ホテルニューオータニにおいて「2018年秋季 JNN 社長会」が開催され、佐々木社長が基調報告を行いました。概要は以下の通りです。

武田に代わって、社長に就任した。北海道地震、西日本豪雨災害、台風21号など大きな災害で苦勞された各局に心よりお見舞い申し上げます。西日本豪雨災害では、JNN で大規模な応援態勢を組み、全国からのべ250人が取材チームとして現地に応援に入った。また北海道地震でも、発生直後、交通機関が遮断される中、速やかに「チームJ」が入った。支援頂いた各局に改めて御礼申し上げます。

一方、東京オリンピック・パラリンピックに向けて、JNN 各局の記者やディレクターをTBSに派遣していただいている。この施策は、2020年の体制強化、取材力・制作能力の向上のためであり、2020年以降のJNNの更なる発展を目指したものの。

<Paravi>

有料動画配信サービス「Paravi」が4月に本格スタートして半年が過ぎた。大好評のうちに最終回を迎えた『義母と娘のブルース』等の連続ドラマや、オリジナル制作したSPECサーガ『SICK'S』などが、視聴再生数の上位を占めている。先般のアジア大会でも、男女サッカーなどのライブ配信も実施し、魅力を高めるよう取り組んだ。会員数は毎月伸びつつあるが、軌道に乗るまでラインナップの充実及びプロモーションに注力しなければならない。動画配信市場では巨大な資金力を持つ外資などのプラットフォームが台頭している。加入者獲得をしっかり支援し、総力をあげて戦っていく。

<BS4K 放送いよいよスタート>

12月1日からBS4K放送が始まる。現在4Kマスター設備を構築中。メーカーでの立会検査は無事終了し、今後、スタジオ系の総合試験、各システムとの連携を確認した後、11月に引渡しを受けて、本放送に備える。

<グループ中期経営計画2020>

「グループ中期経営計画2020」は、初年度の半年が経過するところ。計画では3つのアプローチでTBSクオリティを確立し、グループの基盤をいっそう強化していく。

「総合メディアの多様化と挑戦」としては、新たな投資を検討し、取り組みを進めている。プレースホルダ社は、デジタルテーマパーク「リトルプラネット」の初の常設店舗を7月に「ららぽーと新三郷」に開店し、今後も続々と出店を予定している。夏サカスでは、サンリオ社のキャラクターとコラボしたパークを開催し、家族連れのお客様に好評をいただいた。

全国各地での出店での連携を相談中ともきいている。

「TBS グループが果たすべき社会的責任の遂行」については、その一環として、今月、太陽光や水力など再生可能エネルギー事業に取り組むベンチャー企業「みんな電力」に出資し業務提携を結んだ。「顔のみえる電力」を標榜し、誰がつくった電気かを消費する契約者がわかるようにして、発電事業者を応援できるユニークな仕組みを持っている。TBS ラジオが、戸田送信所を同社の再生可能エネルギーの電力に切り替えるとともに、放送でクリーンエネルギーをリスナーに訴求するなど、自社事業のなかで環境や社会課題に貢献していく取り組みを始める。地域でつくられた電気を、大消費地である都会で消費する、地方活性化に貢献できる事業との評価もあり、各局の連携の可能性も大いにあると考えている。

<視聴率>

視聴率では、まず MBC がこの上期、全日・G・P・NP の全ての時間帯で単独 1 位、4 冠達成が確実となった。それから、RBC は既に年度で 4 年連続 G 帯・P 帯での 2 冠を達成しているが、この上期もその勢いをそのままに G 帯と P 帯で 2 冠の達成が確実だ。続いて、OBS。8 月の 13 日週の週間で、全日帯・G 帯・P 帯・NP 帯の全ての時間帯で 4 冠を獲得された。これは 2001 年 6 月以来 17 年 2 ヶ月ぶりの 4 冠ということ。

<営業>

TBS の上期の営業状況について、タイム収入は、堅調なレギュラーに加えて、アジア大会やワールドカップサッカーの押し上げもあり、昨年を上回る数字での着地見込み。一方スポットは、今年度に入ってから、東京エリアで一度も前年を超えられておらず、最大の懸案事項となっている。

なお、4 月からスポット新指標の「P+C7」が始まった。今のところ、売り上げなどに大きな影響はなく、順調な滑り出しを見せているようだ。これにとどまらず、我々テレビ局は、今後も、これまでにない努力と工夫が必要な時代になっている。

以上